

# 「いしかわ子どもの権利基本条例」(案) に対するパブリックコメントの結果について

- 募集期間 令和7年7月25日(金)～8月25日(月)
- 寄せられたご意見 51件

ばんごう 番号	ご意見の概要	左記に対する考え方
【前文】		
1	「子どもは社会の宝」そのとおりだと思います。おそらく、このことは日本国憲法、児童の権利に関する条約、こども基本法にはない文言ではないでしょうか？昔、父や母、祖父母から聞いたように記憶しています。少子高齢化社会が顕著になりつつある現在、子どもにとっての「おじいちゃん、おばあちゃん」の役割も重要になってくるのではないのでしょうか。テレビなどで帰省中の孫を微笑ましく見つめている高齢者の瞳は子どもたちの未来を馳せて、輝いているのではないのでしょうか。	いただいたご意見は参考とさせていただきます。
2	「社会の宝」というのは社会から見た価値であり、子ども個々が本来的に価値を持っているという人権概念と相容れないものだと考えられる。子どもの権利条例は、子どもの権利行使主体性を重視するものであり、従来の健全育成条例とは完全に異なるものである。「いじめ、児童虐待、子どもの貧困、ヤングケアラー」などの課題が列挙されており、子どもを問題解決の担い手として動員するよう見える。それだけが目的ではないはず。列挙された	条例の検討に当たっては、子ども達のご意見を聴き、いただいたご意見を踏まえ、前文に「大人は、子どもの声に耳を傾け、寄り添っていくことが大切である」と規定しています。

ばんごう 番号	いけん がいよう ご意見の概要	さ き たい かんが かつ 左記に対する 考 え方
	<p>けんりしんが いい がいい たと 権利侵害以外でも、例えばこれまで子 どもに かん しかく じっし さい じゅうぶん に関する施策を実施する際に十分 こ 子どもの せい ぎ 声が聴かれなかったことも けんりしんが いい 権利侵害である。それを権利侵害であつ たという じかく ぜんぶん 自覚のない前文であると かん 感じる。そう おとなめせん こ けんり 総じて大人目線の子どもの権利であ ると かん ぜんぶん こ いっしょ つく 感じた。前文こそ子どもと一緒に作 り、りねん きょうゆう 理念を共有すべきである。</p>	
3	<p>じしん ほこ も 「自信と誇りを持ち～」のところは子 どもに ないしん かん の内心に関する事で、こっか じちたい 国家/自治体 が かんしょう 干渉するべきではないと かんが 考えます。 こっか しょうぎ はいがいしゅうぎ ぐんこく か ここから、国家主義、排外主義、軍国化 などが けねん 懸念されます。</p>	<p>いただいたご意見は参考とさせていただきます。</p>
4	<p>ぜんぶん 前文に、ヤングケアラーを含む様々な たち ば かんきょう お すべ こ 立場、環境に置かれた全ての子どもを たいしゅう じょうれい むね き さい 対象とした条例である旨が記載されて いることはとても じゅうよう かんが 重要だと 考えます。 うえ きほんりねん こ その上で、基本理念に「子どもが みるか 自ら に じしん ほこ も 自信と誇りを持ち」に「誇り」という ことば しょう こ 言葉が使用されていますが、子どもが何 たい も ほこ しめ に対して持つ誇りを示しているのか、 りかい いわかん かん ことば 理解するには違和感を感じる言葉づか いではないかと あん かいしゃく むずか 案じ解釈するには難 しく かん 感じました。「誇り」の せい い み 意味として 「めいよ おも じまん 名誉に思うこと」「自慢すること」と おも 思われますが、おそらくは、子どもが子 どもであること、「子どもが じしん も 自信を持ち」 じぶんじしん たいせつ おも こころ も と「自分自身を大切に思う心を持ち」 とつなげたい いと 意図なのではないでしょ うか。この ぶんめん ほこ こ 文面の「誇り」は子どもにと</p>	<p>いただいたご意見は参考とさせていただきます。</p>

ばんごう 番号	いけん がいよう ご意見の概要	さ き たい かんが かつ 左記に対する 考え方
	<p>むづか がいねん かんが            っては 難しい概念かと 考えます。</p>	
5	<p>ぜんぶん こ みづか こ けんり            前文に「子ども 自らが、子どもの権利            について理解を深めることが必要」とい            う内容があり、このことが重要だと感            じた。大人が、子どもが被害者にならな            いように見守ってあげることも必要だ            が、子ども自身が、何かあった時にこの            状況がおかしいのではないかと気づく            ことができるようになることも必要な            ことだと思った。</p>	<p>いけん さんこう            いただいたご意見は参考とさせてい            ただきます。</p>
6	<p>けんり きほん じょうれい せいあん            いしかわこどもの権利基本条 例 素案            の前文では、主に人権を意味することに            ついて文書化されていますが、目的・            定義・基本理念案からは、権利を意味す            ることが文書化されています。制度・            条 例 を制定する際に、権利と人権の違            い・またその関連性が正しく認識されな            い、整理されないままに策定されると、            こどもの人権保障のどの領域の権利            擁護・権利保障に向けた条 例 なのかが            理解されにくいように感じます。</p>	<p>いけん さんこう            いただいたご意見は参考とさせてい            ただきます。</p>
7	<p>こ けんり きほん じょうれい あん            いしかわこどもの権利基本条 例 （案）            は、石川県の子どもにとって必要だと            考えます。2024年1月1 日に能登を震源            とする地震で辛い思いをしている子ど            もに寄り添うためにも、また、子ども 自            らが思いを発していいんだ、ということ            を伝えるためにも、この条 例 は、今、            石川県に必要だと 考えます。中でも、            私は、前文を読み、感動しましたし、</p>	<p>いけん さんこう            いただいたご意見は参考とさせてい            ただきます。</p>

ばんごう 番号	いけん がいよう ご意見の概要	さ き たい かんが かつ 左記に対する 考 え方
	<p>さんどう 賛同します。その理由は、国連で採択、 はっこう 発効され、日本が 1994年に批准国とな った、子どもの権利条約の4つの特徴が めいき 明記されていて、中でも（育つ権利） （さんか けんり 参加する権利）について明記されてい るからです。この条例（案）が、石川県民 の皆さんに理解され、活かされること で、SDGs がきょうちょう 協調している、誰ひとりお きざり き去りにしない、という理念のため にも、ぜひ、この案が9月議会にていしゅつ 提出され、 さいけつ かけつ 採決（可決）されますよう、せつぼう 切望します。</p>	
もくてき 【目的】		
8	<p>けんぜんいくせい もくてき み 健全育成が目的に見える。「子どもの けんり そんちよう ほしよう 権利が尊重・保障される」こと自体を もくてき こ こえ き しさく 目的とし、子どもの声を聴き、施策に はんえい し く じょうれい 反映する仕組みをつくることを条例 もくてき い ち 目的に位置づけるべきである。</p> <p>けんぜんいくせいじょうれい しゅ せいしやうねん ※健全育成条例は、主として青少年の ひこうぼうし ゆうがいかんきよう ほご もくてき 非行防止や有害環境からの保護を目的 としてせいてい 制定されるものであり、子どもを まも そんざい いちづ 「守られるべき存在」として位置付ける しきさい つよ こ ほご 色彩が強い。ここでは、子どもは保護の きやくたい しゃかい おとな てきせつ 客 体であり、社会や大人によって適切 にみちび じゅうし 導かれることが重視される。これに たい こ けんりじょうれい じどう 対して、子どもの権利条例は、児童の けんり かん じょうやく りねん もと こ 権利に関する条約の理念に基づき、子 どもをこゆう かちも けんり しゅたい 固有の価値を持つ「権利の主体」と してい ちづ てん とくちよう 位置付ける点に特徴がある。目的 は、こ せいぞん はったつ ほご さんか 子どもが生存・発達・保護・参加と</p>	<p>いただいたご意見は参考とさせていただきます。</p>

ばんごう 番号	いけん がいよう ご意見の概要	さ き たい かんが かつ 左記に対する 考え方
	<p> <small>きほんてき</small> <small>けんり</small> <small>きやうじゆ</small> <small>しゃかい</small>            いった基本的な権利を享受できる社会  <small>じつげん</small> <small>こ</small> <small>じしん</small>            を実現することであり、子ども自身が  <small>いけん</small> <small>ひやうめい</small> <small>いけん</small> <small>そんちやう</small>            意見を表明し、その意見が尊重される  <small>じゆうし</small> <small>けんり</small>            ことが重視される。すなわち、権利の  <small>ほしやう</small> <small>しゆつぱつてん</small> <small>おとな</small> <small>やくわり</small>            保障を出発点とし、大人の役割はその  <small>ほしやう</small> <small>じつげん</small> <small>ほかんてきせきむ</small>            保障を実現するための補完的責務とし  <small>さだ</small>            て定められる。         </p>	
ていぎ 【定義】		
9	<p> <small>こ</small> <small>ていぎ</small> <small>しんしん</small> <small>はつたつ</small>            「子ども」の定義を「心身の発達の  <small>かてい</small> <small>もの</small> <small>じつむじやう</small>            過程にある者」としているが、実務上  <small>こんなん</small> <small>しやう</small> <small>さいみまん</small> <small>こ</small>            困難が生じないか。※18歳未満を子ど  <small>いじやう</small> <small>わかもの</small> <small>ぐたいてき</small>            も、それ以上を若者、とするなど、具体的  <small>しさく</small> <small>つな</small> <small>ひやうげん</small> <small>ほう</small> <small>よ</small>            な施策に繋げるための表現の方が良い            のではないか。         </p>	<p> <small>こ</small> <small>ていぎ</small> <small>ねんれい</small> <small>いちりつ</small>            「子ども」の定義は、年齢で一律に  <small>くぎ</small> <small>ひつやう</small> <small>しえん</small> <small>とぎ</small>            区切ること必要な支援が途切れるこ            とのないよう、こども基本法に準じて  <small>しんしん</small> <small>はつたつ</small> <small>かてい</small> <small>もの</small>            「心身の発達の過程にある者」としてい            ます。         </p>
10	<p> <small>こ</small> <small>おとな</small>            どこからが子どもで、どこからが大人  <small>わ</small>            なのかが分かりにくかったです。18歳や  <small>さい</small> <small>からだ</small> <small>そだ</small> <small>こ</small>            20歳でも体が育っていなければ子ども            なんですか？         </p>	
きほんりねん 【基本理念】		
11	<p> <small>きほんりねん</small> <small>こ</small> <small>ふく</small> <small>すべ</small>            基本理念に、「子どもを含めた全ての  <small>けんみん</small> <small>ぜんいん</small> <small>こども</small> <small>せいちやう</small>            県民が」とあるが、全員で子供の成長  <small>みまも</small> <small>ぜんいん</small> <small>あんしんあんぜん</small> <small>く</small>            を見守る、全員で安心安全に暮らせる  <small>かんきやう</small> <small>こころ</small> <small>じゆうやう</small>            環境をつくるよう心がけることは重要  <small>だれ</small> <small>がんばん</small> <small>じやうたい</small>            なことであり、誰かだけが頑張る状態  <small>よ</small> <small>かん</small> <small>てん</small> <small>けん</small>            は良くないと感じた。その点で、県、  <small>しちやう</small> <small>ほごしや</small> <small>がっこうかんけいしや</small> <small>じぎやうしや</small> <small>こ</small>            市町、保護者、学校関係者、事業者、子  <small>こそだ</small> <small>しえんだんたい</small> <small>けんみん</small>            ども・子育て支援団体、そして県民とし  <small>やくわり</small> <small>か</small> <small>てん</small>            てのそれぞれの役割が書かれている点  <small>よ</small> <small>かん</small>            は良いところだと感じた。         </p>	<p>           いただいたご意見は参考とさせていただきます。         </p>
12	<p> <small>こ</small> <small>けんり</small> <small>なに</small> <small>しめ</small>            子どもの権利が何なのかを示してい         </p>	<p>           いただいたご意見も参考に、前文に         </p>

ばんごう 番号	いけん がいよう ご意見の概要	さ き たい かんが かつ 左記に対する 考え方
	<p>ない。せめて児童の権利に関する条 約 に示された権利のことをいう、くらいは 示すべきではないか。</p>	<p>「児童の権利に関する条約は、子どもに 対するあらゆる差別の禁止、子どもの 最善の利益の確保、子どもの生命、生存 及び発達に対する権利の保障並びに子 どもの意見の尊重を原則としており、 子どもが生まれながらに有している生 きる権利、育つ権利、守られる権利、参加 する権利をはじめとした子どもの権利 を社会全体で保障することが求められ ている」と規定しています。</p>
しちよう せきむ 【市町の責務】		
1 3	<p>市町とどのように連携していくのか。 担当はどこになるのか（首 長 部 局 / 教 育 委 員 会）。子どもの権利条例のあ る市町は白山市と内灘町のみである。他 の市町に条 例 策 定 を 働 き かけ る の か 。</p>	<p>条 例 には「市町の責務」として「国 及び県と連携し、地域の実 情 に応じて、 子どもの権利に関する施策を推進する よう努める」と規定しており、いただい たご意見も参考に今後取り組んでまい ります。</p>
ほ ご し ゃ やくわり 【保護者の役割】		
1 4	<p>子どものことを誰よりも知り、子ども が安心できることが一番大切だと思ひ ます。そのために、どんなことも受け入 れてもらえる、尊重されている実感、 失敗しても良いと思われる 状 況 、 環 境 が 保 た れ て い る か と い わ れ ま す 。 保 護 者 （ 家 庭 ） な ら で は の ケ ア が で き て い る か … 保 護 者 と し て 、 自 身 が 自 律 の 力 を 持 ち、自己コントロールできるようになれ ること、それが愛情を感じ、心 に 余 裕 を持ち、保護者としての役割を果たすこ</p>	<p>いただいたご意見は参考とさせてい ただきます。 なお、保護者の負担を考慮し、条 例 の「保護者の役割」に、保護者は「県、 市町その他の関係者から必要な支援を 受けながら」と規定しています。</p>



ばんごう 番号	いけん がいよう ご意見の概要	さ き たい かんが かつ 左記に対する 考 え方
	つな おも とに繋がると思います。	
じぎょうしゃ やくわり 【事業者の役割】		
1 5	しごと じゅうじつ こ つな 仕事の充実が子どもとの繋がりと たいせつ おも ともばたら ても大切なことだと思ひます。共働ひ、 てんきん たんしん なか こ 転勤、単身、シングル…そんな中、子ど もにやさしい町づくりに貢献できる じぎょうしゃ きぎょう じぎょうしゃ 事業者（企業）であるためには、事業者 だけでは足りない部分を県や国など おおやけ えんじょ ほしょう ぐたいさく も 公の援助、保障できる具体策を持って ちんぎん じんいん きゅうか じぎょうしゃ （ex賃金、人員、休暇？）事業者もより こころ たいおう おも 心ある対応ができると思ひます。	いただいたご意見は参考とさせていただきます。
こ こそだ しえんだんたい やくわり 【子ども・子育て支援団体の役割】		
1 6	こ すこ せいちょう 子どもが健やかに成長するために たいせつ おも 大切なこととして祖父母世代として思 うことを提案します。様々大切なことは ていあん さまざまたいせつ ありますが子どもが安心いれる居場所 づく おも わたし かに 作りだと思ひます。私は家庭がいちば んであると思ひます。しかし、2番目3 ばんめ いばしよづく こ ちい 番目の居場所作りです。子どもが小さい ころ ほいくしよ がくどう 頃は、保育所・学童クラブなどがありま すが小学校高学年～中高生の居場所 かに ほか おも は、家庭の他にないのではないかと思ひ ます。家庭の機能が不十分である場合、 かしゅんき じぶんじしん たしや 思春期という自分自身のことや他者と かんけい かつどう こ しえん の関係で葛藤する子どもたちを支援す ばしよ つく きぼう る場所を作ってあげることを希望しま す。	いただいたご意見は参考とさせていただきます。
けんみん やくわり 【県民の役割】		
1 7	けんみん やくわり ほうとう けんみん きほんりねん 県民の役割の冒頭、「県民は、基本理念 にのっとり」の県民は、「県内全ての大人	こ おとな と すべ けんみん こ 子ども・大人を問はず全ての県民が子 どもの権利について意識を高め、理解を

ばんごう 番号	いけん がいよう ご意見の概要	さ き たい かんが かつ 左記に対する 考え方
	<p>は”にしたほうが良いと思います。子どもは保証される立場なので、子どもも協力せよ、というのはおかしいかなと思います。</p>	<p>深めるとともに、施策に協力することが重要であることから、ご指摘の規定としています。</p>
いけん ひょうめい およ しゃかい さんかく そくしん 【意見表明及び社会参画の促進】		
18	<p>具体的にどのような環境を整備するのか。これから検討するとしても、条例策定時点ではどのような環境を整備したのか。</p>	<p>既に、子どもが随時意見を投稿できる「子ども・若者意見箱」の設置等に取り組んでおり、今後も条例の趣旨に沿って取り組んでまいります。</p>
19	<p>子ども会議、パブリックコメント等を実施する際は、大人と同様に、単に場を設けるだけでは不十分である。事前学習の機会や意見を言いやすい環境、ファシリテーターの派遣等が求められる。それだけの準備を整えることはできるのか。全員に集まってもらって声を聴かせてもらうことは困難であるが、その際、公平性と代表性を保障することが求められる。県域でどのように進めていくのか。</p>	<p>子どもの意見表明に当たっては、様々な配慮や工夫が必要であり、いただいたご意見も参考に今後取り組んでまいります。</p>
20	<p>「意見を表明し」が何を指すのか。児童の権利に関する条約12条1項にあるように、自己に関することについて意見を表明する機会及びそれが正当に重視されることを保障したい。</p>	<p>いただいたご意見は参考とさせていただきます。</p>
こうほう けいはつ 【広報啓発】		
21	<p>広報啓発に関して、今現在行われている活動や取り組みについても十分に知らないことがあるので、私たちが情報をより集めなければならず、受け</p>	<p>いただいたご意見は参考とさせていただきます。</p>



ばんごう 番号	いけん がいよう ご意見の概要	さ き たい かんが かつ 左記に対する 考 え方
	<p>と 取れるようにしなければならないのは もちろんだが、それと同時に広報の方法 を工夫するなどしてより広まるように なると良いなと感じた。</p>	
2 2	<p>こ どもを守るために県、市町、保護者、 がっこうかんけいしゃ けんみん たよう たちば ひとひと 学校関係者、県民と多様な立場の人々が こころ がけるべきことが条文ごとに明記 されている条例であり、自分が子ども のために何を行えるのかを考えるき っかけを与えるものであると感じまし た。</p> <p>この じょうれい を各職場や公共施設に ていじ かつ 提示する形を取れば、子どもが健やか に生活できる環境を形成するために こうどう 行動しやすくなるのではないかと思います。 たとえば、保護者であれば育休を しゅとく 取得しやすくなったり、がっこうかんけいしゃ 学校関係者であ ればようす 普段とは異なるじどう 児童を気に かけしんみ 親身になって はなし 話を聞くなどの行動 をとる ことです。</p>	<p>いただいたご意見は参考とさせていただきます。</p>
2 3	<p>こ どもが子どものけんり 権利を知るための し さく 施策は「広報啓発」に含まれるのか。そ うであれば、ぐたいてき 具体的にどのような施策を こう 講じるのか。既存の取り組みを位置付け るのか、それともしんきぎよう 新規事業を立ち上げる のか。がっこう 学校における取り組みは「学校 かんけいしゃなど やくわり 関係者等の役割」のたいしょう 対象と思われるこ とから、それ以外にいがい と 取り組みについて知 りたい。</p>	<p>こ どもが子どものけんり 権利を知るため、リ ーフレットをさくせい 作成し、しゅうち 周知していくよてい 予定です。</p>

ばんごう 番号	いけん がいよう ご意見の概要	さ き たい かんが かつ 左記に対する 考え方
24	<p>こくれん こ けんりいんかい 国連子どもの権利委員会（2009）</p> <p>いっぱんてき いけん ごう いけん き 「一般的意見12号」では「意見を聴かれ</p> <p>こ けんり じっし る子どもの権利を実施するた</p> <p>だんかいそ ち じゅんぴ ちょうもん めの段階的措置」として、「準備」「聴聞」</p> <p>こ ちから ひょうか こ いけん 「子どもの力の評価」「子どもの意見が</p> <p>ていどじゅうし かん じょうほう どの程度重視されたかに関する情報</p> <p>（フィードバック）」「苦情申立て、救済</p> <p>そち ぜせい そち ちゅうと 措置および是正措置」という措置が取ら</p> <p>れることを求めている。条例案のパブ</p> <p>リックコメントは、従来の他の条例と</p> <p>どうよう とく こくち 同様に、特に告知することなくホームペ</p> <p>ージ上で公開し、実施されたと思われ</p> <p>るが、そのやり方を子どもに適用して</p> <p>は、十分な「準備」が行われたとは言</p> <p>い難い。十分な情報提供と聴聞の</p> <p>かんきょう せいび ふか けつ じょうれいさくてい 環境の整備が不可欠であり、条例策定</p> <p>の段階から広報啓発が不十分であった</p> <p>と言わざるを得ない。</p>	<p>こ いけん き とりくみ 子どもの意見を聴く取組については、</p> <p>たいめん いけん こうかんかい がつ がつ かいさい 対面での意見交換会（8月・11月）を開催</p> <p>したほか、ウェブアンケートを実施いた</p> <p>しました。それぞれの結果については、</p> <p>以下に掲載しております。</p> <p><a href="https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kodomoseisaku/kenri_jyorei/kenri_jyorei.html">https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kodomoseisaku/kenri_jyorei/kenri_jyorei.html</a></p>
25	<p>きほんじょうれい こ ばん か 基本条例（子ども版）に書かれてい</p> <p>た「みんなが子どもの権利についてもっ</p> <p>と知って」という一文が全てだと感じま</p> <p>した。県民が意識を高め理解を深めるた</p> <p>めの広報活動は恒久的に行っていく</p> <p>べきであるし、それは被災地であっても</p> <p>同じであると考えます。現在、東日本</p> <p>大震災を経験した当時の子供たちに重</p> <p>い精神疾患を患っている人が多いと</p> <p>みやぎけんざいじゅう ちじん き 宮城県在住の知人から聞きました。</p> <p>とうじ じんたい ひがい おとな こども こうむ 当時は甚大な被害を大人も子供も被</p> <p>り、生きていくのに必死だったため、</p>	<p>いただいたご意見は参考とさせていただきます。</p>

ばんごう 番号	いけん がいよう ご意見の概要	さ き たい かんが かつ 左記に対する 考 え方
	<p>こども 子供たちにかまってあげられなかった おや こ じ 親や孤児になってしまった子供たちが、 あい しん ほこ も 愛され、信じてもらい、自信と誇りを持 ち、ゆめ きぼう いだ あ まえ 夢や希望を抱く。そんなあたり前の いと な けいけん そだ くる 営みを経験できずに育ったため苦し でいるわかもの ふ い る若者が増えていると言われてい るそうです。このこと きょうくん の と はんとう 事を教訓に、能登半島 じしん ひさい こども ひとり 地震の被災した子供たちには一人もそ んなおも いはさせないためにも、きめこま かいし えん けいぞくてき こうほうかつどう い い支援と継続的な広報活動を行って くべきだと思ひます。それにはすべての いしかわけんみん きょうりよく ひつよう わたし 石川県民の協力が必要であるし、私 たちもどりよく いくべきであるとあらた めておも じょうれい せいいてい お て思ひました。”条例を制定して終わり ”にならぬよう、こどもたちをみな まも りたいと思ひます。</p>	
そうだんたいせい じゅうじつ 【相談体制の充実】		
26	<p>ほ ごし や じしん あんしん こそだ 保護者自身が安心して子育てができ るきも 気持ちとなるよう、できるならば、 そうだんたいせい じゅうじつ ほ ごし や 「相談体制の充実」のところに、保護者 じしん そうだん たいせい 自身が相談できる体制づくり、というも のがなに はい こ そだ のが何か入ったら、より子どもを育てる おや あんしん けんみん よ そ 親が安心できる、そんな県民に寄り添っ たじょうれい た条例となるのでは、と感 じました。 ほ ごし や じぎょうしょ がっこうかんけいしゃ こ 保護者や事業所・学校関係者など子ども とあいたい たちば ほう してん た と相対する立場の方の視点に立った ないよう も こ すじ 内容を盛り込むのが、そもそもの筋から はず 外れてしまうようであれば、この条例 とはべつ たと じょうれい 別の、例えばサブ条例のようなも の、こ じんけん まも こ の、子どもの人権を守るために子どもと</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、じょうれい 以下のとおりきてい 規定しています。 「けん こ けんり ようご はか 県は、子どもの権利の擁護を図るた め、こども およ ほごし や た かんけいしゃ め、子ども及び保護者その他の関係者か らのそうだん おう の相談に応ずるための体制の充実を はか 図るものとする」</p>

ばんごう 番号	いけん がいよう ご意見の概要	さ き たい かんが かつ 左記に対する 考 え方
	かかわる <sup>ひと</sup> 人のためのもの、があれば <sup>よ</sup> 良い な <sup>おも</sup> と思いました。	
2 7	具体的に <sup>ぐたいてき</sup> どのような <sup>て だ</sup> 手立てを <sup>こう</sup> 講じる のか。既存 <sup>き せん</sup> の <sup>と</sup> 取り組みを <sup>い ち づ</sup> 位置付けるの か、それとも新規事業 <sup>しん き じ ぎ ょう</sup> を <sup>た</sup> 立ち <sup>あ</sup> 上げるの か。	既存 <sup>き せん</sup> の <sup>そう だん ま ど ぐ ち</sup> 相談窓口や <sup>し え ん き かん</sup> 支援機関 <sup>かつ よう</sup> の <sup>こ ん ご</sup> 活用 <sup>こ ま</sup> のほか、 <sup>そう だん たい お う</sup> 今後も <sup>と</sup> きめ細 <sup>く</sup> かい相談 <sup>さん ぎ ょ う</sup> 対応 <sup>さん ぎ ょ う</sup> ができる よう <sup>と</sup> 取り組 <sup>く</sup> んでまいります。
けん り よう ぎ 【権利擁護】		
2 8	独立 <sup>どくりつ</sup> した <sup>だい さん し ゃ き かん</sup> 第三者機関 <sup>もう</sup> が <sup>けん</sup> 設 <sup>し ざ く</sup> けられてい ない <sup>て ん</sup> 点 <sup>ふ じ ゅ う ぶ ん</sup> が不 <sup>けん</sup> 十分 <sup>し ざ く</sup> である。県 <sup>けん</sup> の <sup>し ざ く</sup> 施策 <sup>し ざ く</sup> を 監視 <sup>かん し</sup> ・ <sup>ひ ょ う か</sup> 評価 <sup>けん り し ん が い</sup> し、 <sup>たい お う</sup> 権利 <sup>けん り</sup> 侵害 <sup>けん り</sup> に <sup>たい お う</sup> 対 <sup>けん り</sup> 応 <sup>けん り</sup> する <sup>けん り</sup> ため、 こ <sup>けん り</sup> ども <sup>けん り</sup> コミッショナー <sup>けん り</sup> や <sup>けん り</sup> こ <sup>けん り</sup> どもの <sup>けん り</sup> 権 <sup>けん り</sup> 利 <sup>けん り</sup> 委員 <sup>い い ん か い</sup> 会 <sup>せ っ ち</sup> を <sup>ど くり つ せ い</sup> 設置 <sup>ゆう</sup> すべき <sup>ゆう</sup> である。独立 <sup>どくりつ</sup> 性 <sup>せい</sup> を有 <sup>ゆう</sup> し、 <sup>ち ょ う さ け ん</sup> 調 <sup>かん こと け ん</sup> 査 <sup>そ な</sup> 権 <sup>き かん</sup> や <sup>そ ん ざ い</sup> 勧 <sup>けん り よう ぎ</sup> 告 <sup>じ っ ち ょ う せ い</sup> 権 <sup>か</sup> を <sup>か</sup> 備 <sup>お も</sup> える <sup>お も</sup> 機 <sup>お も</sup> 関 <sup>お も</sup> が <sup>お も</sup> 存在 <sup>お も</sup> しなければ、 <sup>けん り よう ぎ</sup> 権 <sup>けん り</sup> 利 <sup>けん り</sup> 擁 <sup>けん り</sup> 護 <sup>けん り</sup> は <sup>けん り</sup> 実 <sup>けん り</sup> 効 <sup>けん り</sup> 性 <sup>けん り</sup> を <sup>けん り</sup> 欠 <sup>けん り</sup> く <sup>けん り</sup> と 思 <sup>お も</sup> わ <sup>お も</sup> れる。	これまで <sup>けん り し ん が い</sup> も <sup>こ</sup> 権 <sup>けん り</sup> 利 <sup>けん り</sup> 侵 <sup>けん り</sup> 害 <sup>けん り</sup> があ <sup>こ</sup> った <sup>こ</sup> 子 <sup>こ</sup> ども <sup>こ</sup> に <sup>たい</sup> 対 <sup>かく さん だ ん</sup> し、 <sup>し え ん き かん</sup> 各 <sup>たい お う</sup> 相 <sup>たい お う</sup> 談 <sup>たい お う</sup> ・ <sup>たい お う</sup> 支 <sup>たい お う</sup> 援 <sup>たい お う</sup> 機 <sup>たい お う</sup> 関 <sup>たい お う</sup> により <sup>たい お う</sup> 対 <sup>たい お う</sup> 応 <sup>たい お う</sup> し て <sup>い けん</sup> きた <sup>い けん</sup> と <sup>い けん</sup> こ <sup>い けん</sup> ろ <sup>い けん</sup> で <sup>い けん</sup> あ <sup>い けん</sup> り、 <sup>い けん</sup> い <sup>い けん</sup> た <sup>い けん</sup> だ <sup>い けん</sup> い <sup>い けん</sup> た <sup>い けん</sup> ご <sup>い けん</sup> 意 <sup>い けん</sup> 見 <sup>い けん</sup> は <sup>さん ぎ ょ う</sup> 参 <sup>さん ぎ ょ う</sup> 考 <sup>さん ぎ ょ う</sup> と <sup>さん ぎ ょ う</sup> さ <sup>さん ぎ ょ う</sup> せ <sup>さん ぎ ょ う</sup> て <sup>さん ぎ ょ う</sup> い <sup>さん ぎ ょ う</sup> た <sup>さん ぎ ょ う</sup> だ <sup>さん ぎ ょ う</sup> き <sup>さん ぎ ょ う</sup> ま <sup>さん ぎ ょ う</sup> す。
けん り よう ぎ すい し ん たい せ い せい び 【権利擁護・推進体制の整備】		
2 9	それぞれに <sup>ひ つ よう</sup> 必要 <sup>そ ち</sup> な <sup>こう</sup> 措 <sup>こう</sup> 置 <sup>こう</sup> を <sup>こう</sup> 講 <sup>こう</sup> ず <sup>こう</sup> るとあ り <sup>す こ</sup> ますが、 <sup>ぐ た い て き</sup> もう <sup>か</sup> 少 <sup>か</sup> し <sup>か</sup> 具 <sup>か</sup> 体 <sup>か</sup> 的 <sup>か</sup> に <sup>か</sup> 書 <sup>か</sup> い <sup>か</sup> て <sup>か</sup> く <sup>か</sup> だ さい。 <sup>こう</sup> 講 <sup>し ん</sup> ず <sup>が た</sup> る <sup>が た</sup> か <sup>が た</sup> ど <sup>が た</sup> う <sup>が た</sup> か <sup>が た</sup> 信 <sup>し ん</sup> じ <sup>が た</sup> 難 <sup>が た</sup> い <sup>が た</sup> ので。 <sup>ど</sup> ど う <sup>ね が</sup> か <sup>ね が</sup> よ <sup>ね が</sup> ろ <sup>ね が</sup> し <sup>ね が</sup> く <sup>ね が</sup> お <sup>ね が</sup> 願 <sup>ね が</sup> い <sup>ね が</sup> た <sup>ね が</sup> し <sup>ね が</sup> ま <sup>ね が</sup> す。	い <sup>い けん</sup> た <sup>い けん</sup> だ <sup>い けん</sup> い <sup>い けん</sup> た <sup>い けん</sup> ご <sup>い けん</sup> 意 <sup>い けん</sup> 見 <sup>い けん</sup> は <sup>さん ぎ ょ う</sup> 参 <sup>さん ぎ ょ う</sup> 考 <sup>さん ぎ ょ う</sup> と <sup>さん ぎ ょ う</sup> さ <sup>さん ぎ ょ う</sup> せ <sup>さん ぎ ょ う</sup> て <sup>さん ぎ ょ う</sup> い <sup>さん ぎ ょ う</sup> た <sup>さん ぎ ょ う</sup> だ <sup>さん ぎ ょ う</sup> き <sup>さん ぎ ょ う</sup> ま <sup>さん ぎ ょ う</sup> す。
すい し ん たい せ い せい び 【推進体制の整備】		
3 0	社 <sup>し ゃ か い</sup> 会 <sup>じ っ じ ょ う</sup> の <sup>あ</sup> 実 <sup>し ざ く</sup> 情 <sup>し ざ く</sup> に <sup>し ざ く</sup> 合 <sup>し ざ く</sup> わ <sup>し ざ く</sup> せ <sup>し ざ く</sup> た <sup>し ざ く</sup> 、 <sup>し ざ く</sup> 施 <sup>し ざ く</sup> 策 <sup>し ざ く</sup> を <sup>し ざ く</sup> ア <sup>し ざ く</sup> ッ <sup>し ざ く</sup> プ <sup>し ざ く</sup> デ <sup>し ざ く</sup> ア <sup>し ざ く</sup> ト <sup>し ざ く</sup> し <sup>し ざ く</sup> 続 <sup>し ざ く</sup> け <sup>し ざ く</sup> る <sup>し ざ く</sup> た <sup>し ざ く</sup> め <sup>し ざ く</sup> の <sup>し ざ く</sup> 制 <sup>し ざ く</sup> 度 <sup>し ざ く</sup> が <sup>し ざ く</sup> 必 <sup>し ざ く</sup> 要 <sup>し ざ く</sup> 。 <sup>こう だ ょ う け い かく</sup> 行 <sup>さ くて い</sup> 動 <sup>ね ん</sup> 計 <sup>か い て い</sup> 画 <sup>か い て い</sup> を <sup>か い て い</sup> 策 <sup>か い て い</sup> 定 <sup>か い て い</sup> し、 <sup>ね ん</sup> 4 <sup>ね ん</sup> 年 <sup>ね ん</sup> ご <sup>ね ん</sup> と <sup>ね ん</sup> に <sup>ね ん</sup> 改 <sup>か い て い</sup> 訂 <sup>か い て い</sup> する と <sup>ほう ほう</sup> い <sup>ほう ほう</sup> った <sup>ほう ほう</sup> 方 <sup>ほう ほう</sup> 法 <sup>ほう ほう</sup> が <sup>ほう ほう</sup> あ <sup>ほう ほう</sup> る。	い <sup>い けん</sup> た <sup>い けん</sup> だ <sup>い けん</sup> い <sup>い けん</sup> た <sup>い けん</sup> ご <sup>い けん</sup> 意 <sup>い けん</sup> 見 <sup>い けん</sup> は <sup>さん ぎ ょ う</sup> 参 <sup>さん ぎ ょ う</sup> 考 <sup>さん ぎ ょ う</sup> と <sup>さん ぎ ょ う</sup> さ <sup>さん ぎ ょ う</sup> せ <sup>さん ぎ ょ う</sup> て <sup>さん ぎ ょ う</sup> い <sup>さん ぎ ょ う</sup> た <sup>さん ぎ ょ う</sup> だ <sup>さん ぎ ょ う</sup> き <sup>さん ぎ ょ う</sup> ま <sup>さん ぎ ょ う</sup> す。
3 1	少 <sup>し ょ う し か た い ざ く かん し つ</sup> 子 <sup>た ん と う</sup> 化 <sup>た ん と う</sup> 対 <sup>た ん と う</sup> 策 <sup>た ん と う</sup> 監 <sup>た ん と う</sup> 室 <sup>た ん と う</sup> が <sup>た ん と う</sup> 担 <sup>た ん と う</sup> 当 <sup>た ん と う</sup> と <sup>た ん と う</sup> な <sup>た ん と う</sup> っ <sup>た ん と う</sup> て <sup>た ん と う</sup> い <sup>た ん と う</sup> る が、 <sup>き ょ う い く い い ん か い</sup> 教 <sup>れ ん け い</sup> 育 <sup>れ ん け い</sup> 委 <sup>れ ん け い</sup> 員 <sup>れ ん け い</sup> 会 <sup>れ ん け い</sup> と <sup>れ ん け い</sup> も <sup>れ ん け い</sup> 連 <sup>れ ん け い</sup> 携 <sup>れ ん け い</sup> し <sup>れ ん け い</sup> な <sup>れ ん け い</sup> が <sup>れ ん け い</sup> ら <sup>れ ん け い</sup> 進 <sup>れ ん け い</sup> め <sup>れ ん け い</sup> る <sup>す す</sup> べ <sup>す す</sup> き。 <sup>こ</sup> 子 <sup>けん り</sup> ども <sup>けん り</sup> の <sup>けん り</sup> 権 <sup>けん り</sup> 利 <sup>けん り</sup> の <sup>けん り</sup> 普 <sup>けん り</sup> 及 <sup>けん り</sup> ・ <sup>けん り</sup> 推 <sup>けん り</sup> 進 <sup>けん り</sup> に <sup>けん り</sup> あ た <sup>けん り</sup> り、 <sup>けん り</sup> 学 <sup>けん り</sup> 校 <sup>けん り</sup> の <sup>けん り</sup> 関 <sup>けん り</sup> 与 <sup>けん り</sup> は <sup>けん り</sup> 欠 <sup>けん り</sup> か <sup>けん り</sup> せ <sup>けん り</sup> ない。「 <sup>けん り</sup> 権 <sup>けん り</sup> 利 <sup>けん り</sup> 擁 <sup>けん り</sup> 護 <sup>けん り</sup> 」 <sup>けん り</sup> と <sup>けん り</sup> 合 <sup>けん り</sup> わ <sup>けん り</sup> せ <sup>けん り</sup> て、 <sup>けん り</sup> 施 <sup>けん り</sup> 策 <sup>けん り</sup> の <sup>けん り</sup> 検 <sup>けん り</sup> 討 <sup>けん り</sup> ・ <sup>けん り</sup> 実 <sup>けん り</sup> 施 <sup>けん り</sup> に <sup>けん り</sup>	こ <sup>こ</sup> 子 <sup>けん り</sup> ども <sup>けん り</sup> の <sup>けん り</sup> 権 <sup>けん り</sup> 利 <sup>けん り</sup> の <sup>けん り</sup> 普 <sup>けん り</sup> 及 <sup>けん り</sup> 啓 <sup>けん り</sup> 発 <sup>けん り</sup> に <sup>けん り</sup> 当 <sup>けん り</sup> た <sup>けん り</sup> っ <sup>けん り</sup> て は、 <sup>き ょ う い く い い ん か い</sup> こ <sup>き ょ う い く い い ん か い</sup> れ <sup>き ょ う い く い い ん か い</sup> ま <sup>き ょ う い く い い ん か い</sup> で <sup>き ょ う い く い い ん か い</sup> も <sup>き ょ う い く い い ん か い</sup> 教 <sup>き ょ う い く い い ん か い</sup> 育 <sup>き ょ う い く い い ん か い</sup> 委 <sup>き ょ う い く い い ん か い</sup> 員 <sup>き ょ う い く い い ん か い</sup> 会 <sup>き ょ う い く い い ん か い</sup> の <sup>き ょ う い く い い ん か い</sup> 協 <sup>き ょ う い く い い ん か い</sup> 力 <sup>き ょ う い く い い ん か い</sup> を 得 <sup>え</sup> て <sup>え</sup> 実 <sup>え</sup> 施 <sup>え</sup> し <sup>え</sup> て <sup>え</sup> お <sup>え</sup> り、 <sup>え</sup> 引 <sup>え</sup> き <sup>え</sup> 続 <sup>え</sup> き <sup>え</sup> 連 <sup>え</sup> 携 <sup>え</sup> し <sup>え</sup> て <sup>え</sup> と <sup>え</sup> り <sup>え</sup> く <sup>え</sup> み <sup>え</sup> す <sup>え</sup> す <sup>え</sup> 進 <sup>え</sup> め <sup>え</sup> て <sup>え</sup> ま <sup>え</sup> い <sup>え</sup> り <sup>え</sup> ま <sup>え</sup> す。

ばんごう 番号	いけん がいよう ご意見の概要	さ き たい かんが かつ 左記に対する 考 え方
	あたり <sup>れんけい</sup> 連携してほしい。	
【その他 <sup>た</sup> 】		
3 2	食 <sup>しょく</sup> と 住 <sup>じゅう</sup> はあるけど服 <sup>ふく</sup> を助 <sup>たす</sup> けてくれればいい。	いただいたご意見 <sup>いけん</sup> は参考 <sup>さんこう</sup> とさせていただきます。
3 3	いろんな人 <sup>ひと</sup> たちに守 <sup>まも</sup> られているというの <sup>の</sup> がわかってよかったです。	いただいたご意見 <sup>いけん</sup> は参考 <sup>さんこう</sup> とさせていただきます。
3 4	子 <sup>こ</sup> どもが人 <sup>ひと</sup> から愛 <sup>あい</sup> されていることをし <sup>し</sup> ったので、子 <sup>こ</sup> どもってすごいなと思 <sup>おも</sup> いました。	いただいたご意見 <sup>いけん</sup> は参考 <sup>さんこう</sup> とさせていただきます。
3 5	「協 <sup>きょうりよく</sup> 力 <sup>りき</sup> するよう <sup>よう</sup> に努 <sup>つと</sup> めるもの」だけの一 <sup>いち</sup> 方向 <sup>ほうこう</sup> 性 <sup>せい</sup> ではなく、協 <sup>きょうどう</sup> 働 <sup>どう</sup> ・連 <sup>れんけい</sup> 携 <sup>がいねん</sup> の概 <sup>がい</sup> 念 <sup>ねん</sup> が必 <sup>ひつ</sup> 要 <sup>よう</sup> かと思 <sup>かんが</sup> えます。条 <sup>じょう</sup> 例 <sup>れい</sup> 案 <sup>あん</sup> の子 <sup>こ</sup> ども版 <sup>ばん</sup> にあるよう <sup>よう</sup> な相 <sup>そう</sup> 談 <sup>だん</sup> 、「子 <sup>こ</sup> どもが悩 <sup>なや</sup> んだとき」だけではなく、子 <sup>こ</sup> どもの立 <sup>たち</sup> 場 <sup>ば</sup> に立 <sup>た</sup> った「どんなときでも・どんなことでも話 <sup>はな</sup> していい」視 <sup>して</sup> 点 <sup>てん</sup> を取 <sup>と</sup> り入 <sup>い</sup> れてくださることを希 <sup>き</sup> 望 <sup>ぼう</sup> します。条 <sup>じょう</sup> 例 <sup>れい</sup> 自 <sup>じ</sup> らハド <sup>う</sup> ルを <sup>あ</sup> 上 <sup>そう</sup> げず、「相 <sup>なや</sup> 談 <sup>はな</sup> 」は「悩 <sup>なや</sup> まない」と話 <sup>はな</sup> してはいけ <sup>い</sup> ない？」と捉 <sup>とら</sup> える可 <sup>かの</sup> 能 <sup>う</sup> 性 <sup>せい</sup> もあり、ま <sup>な</sup> ずは「悩 <sup>なや</sup> みではなくてもい <sup>い</sup> ろんなこ <sup>はな</sup> を <sup>かん</sup> 話 <sup>きんきよう</sup> せるんだ」という環 <sup>かん</sup> 境 <sup>きよう</sup> を整 <sup>と</sup> え <sup>との</sup> ることが、相 <sup>そう</sup> 談 <sup>だん</sup> 体 <sup>たい</sup> 制 <sup>せい</sup> 構 <sup>こう</sup> 築 <sup>ちく</sup> の大 <sup>だい</sup> 前 <sup>ぜん</sup> 提 <sup>てい</sup> であるこ <sup>こ</sup> を <sup>じょう</sup> ぜ <sup>れい</sup> ひ条 <sup>じょう</sup> 例 <sup>れい</sup> に組 <sup>く</sup> み入 <sup>い</sup> れていただき <sup>い</sup> たいと申 <sup>もう</sup> し上 <sup>あ</sup> げます。	いただいたご意見 <sup>いけん</sup> は参考 <sup>さんこう</sup> とさせていただきます。
3 6	日 <sup>ひ</sup> ご <sup>こ</sup> ろから子 <sup>けんり</sup> ども <sup>かか</sup> の権 <sup>けん</sup> 利 <sup>り</sup> に関 <sup>かん</sup> わ <sup>る</sup> る活 <sup>かつ</sup> 動 <sup>どう</sup> を <sup>ない</sup> し <sup>よう</sup> て <sup>い</sup> るもの <sup>な</sup> です。内 <sup>ない</sup> 容 <sup>よう</sup> につ <sup>い</sup> て、よ <sup>よ</sup> くま <sup>ま</sup> とま <sup>ま</sup> つてい <sup>い</sup> ると思 <sup>かん</sup> じ <sup>ま</sup> した。命 <sup>いのち</sup> や暮 <sup>く</sup> ら <sup>ら</sup> しに直 <sup>ちよく</sup> 接 <sup>せつ</sup> か <sup>か</sup> わ <sup>ら</sup> ないた <sup>た</sup> め、重 <sup>じゅう</sup> 要 <sup>よう</sup> 視 <sup>し</sup> さ <sup>さ</sup> れ <sup>れ</sup> ない項 <sup>こう</sup> 目 <sup>もく</sup> 「参 <sup>さん</sup> 加 <sup>か</sup> の促 <sup>そく</sup> 進 <sup>しん</sup> 」「意 <sup>い</sup> 見 <sup>けん</sup> の施 <sup>し</sup> 策 <sup>さく</sup> の反 <sup>はん</sup> 映 <sup>えい</sup> 」が <sup>はい</sup> 入 <sup>い</sup> っ <sup>て</sup> るこ <sup>こ</sup> とはと <sup>と</sup> て <sup>も</sup> も	いただいたご意見 <sup>いけん</sup> は参考 <sup>さんこう</sup> とさせていただきます。

ばんごう 番号	いけん がいよう ご意見の概要	さ き たい かんが かつ 左記に対する 考 え方
	<p>よいとおもいました。この項目は、意見の ひょうめい さんか あと じんせい 表 明 や参加がその後の人生における QOL などの大きくかわり、またその けいけん つぎ せだい でんぱん 経験が次の世代へ伝搬するものだから です。ぜひ、県として大きく促進を図り、 とく けんおよ かくしちやうきやういくいんかい しやうち 特に県及び各市町教育委員会への周知 てっぺい うなが じつこうせい 徹底を 促 し実効性のあるものにしてい ただきたいとおもいます。</p>	
37	<p>こ どもの けんり が守られ、子どもが健や かに、えがお あふれる しあわ せいかつ おく 笑顔あふれる 幸せな生活を送る ことができる こうふく ど にほんいち いしかわけん ことが できる 幸福度日本一の石川県の じつげん め ざ じやうれい 実現を目指すためにも、ぜひ 条例 が ひつよう かんが 必要だと 考 えています。</p>	<p>いただいたご意見は参考とさせていただきます。</p>
38	<p>「こ ども ばん」と せいごうせい をもって ぎさい していただきたく思います。全体として子 どもの してん かん 視点 がもっとあればと 感 じます。 ぜひ、じやうぶん こ ふく けんみん 条文 がより子どもを含む県民と けん けん 県にとって 役 立つものとなりますよう せつ ねが 切に願います。</p>	<p>いただいたご意見は参考とさせていただきます。</p>
39	<p>さくてい 策定プロセスについて。 じやうれい さくてい に あたり、こ ども から いけん き ひつよう 意見 を 聴く 必要 が あるが、どの 層 からどのように ちやうしゆ 聴 取 し たのか。もし意見 を 聴 いたのであれば、 ねんれい そう しやうがく じやうきやう しやうがい う む その 年 齢 層、就 学 状 況、障 害 の有無、 ちい き ぞくせい しめ ほうほう 地 域 などの 属 性 を示し、どのような方法 (ワークショップ、アンケート、めんだん など) で、いつ、何 件 の意見 を 集 めたのかを てい じ 提示 してほしい。これは じどう けんり かん 児 童 の 権 利 に 関 する じやうやく じやうだい こう もと てつづきてき 条 約 12 条 第 2 項 が 求 める、手 続 的 せいとうせい しめ かい じ ひつよう 正 当 性 を示すために 開 示 する 必要 があ</p>	<p>こ どもの いけん き とりくみ 意見 を 聴く 取 組 については、 たいめん いけん こうかんかい がつ がつ かいさい 対 面 での 意 見 交 換 会 (8 月・11 月) を 開 催 したほか、ウェブアンケートを じっし 実 施 いた しました。それぞれの けっか 結 果 については、 い か けいさい 以下に 掲 載 しております。  https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kodomoseisaku/kenri_jyorei/kenri_jyorei.html</p>



ばんごう 番号	いけん がいよう ご意見の概要	さ き たい かんが かつ 左記に対する 考 え方
	<p>かんが ると 考 える。</p>	
4 0	<p>じょうれい さくてい じょうれいあん けんとう 条 例 の策定や条 例 案 の検討につい て、どれだけ ちから い しゅうち おこな のか。国連子どもの権利委員会（2009） 「いっばんてきいけん ごう いけん き 「一般的意見12号」では「意見を聴かれ る子どもの権利を実施するための だんかいてき そ ち じゅんび ひつようせい 段階的措置」として、「準備」の必要性 が示されている。条 例 案 のパブリック コメントは、従 来 の他 の条 例 等 と同様 に、特に告知することなくホームページ じょう こうかい じっし おも 上 で公開し、実施されたと思われるが、 そのやり方を子どもに適用しては、 じゅうぶん じゅんび おこな い がた 十分な「準備」が行われたとは言い難 い。じゅうぶん じょうほうていきよう ちょうもん かんきよう 十分な情報提供と聴聞の環境 せいび ふ かけつ じょうれいさくてい の整備が不可欠であり、条 例 策定の だんかい こうほうけいはつ ふじゅうぶん 段階から広報啓発が不十分であったと い 言わざるを得ない。</p>	<p>じょうれい けんとうか てい けん 条 例 の検討過程については、県ホー ムページに掲載するとともに、ウェブア ンケートや公聴会などにより条 例 案 しゅうち おこな の周知を行っております。</p>
4 1	<p>がっこう とお ちょうさ ひろ 学校を通したアンケート調査は広く こえ き しゅだん じっし 声を聴くことのできる手段だが、実施し たのか。</p>	<p>ウェブアンケートを実施しており、 じっし あ がっこう つう いらい 実施に当たっては、学校を通じて依頼し ました。アンケートの結果については、 い か けいさい 以下に掲載しております。</p> <p><a href="https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kodomoseisaku/kenri_jyorei/kenri_jyorei.html">https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kodomoseisaku/kenri_jyorei/kenri_jyorei.html</a></p>
4 2	<p>じょうれい けんとうき かん ほか 条 例 の検討期間について。他の じちたい ほか じちたい やく ねんかん 自治体では他の自治体では約2年間か けて条 例 案 を検討した例もある。本県 じょうれいあん けんとう れい ほんけん の検討期間は相対的に 短 く、熟議とし けんとうき かん そうたいき みじか じゅくぎ の検討期間は相対的に 短 く、熟議とし じゅうぶん ぎもん のこ て十分であったのか疑問が残る。</p>	<p>じょうれい せいび れいわ ねん がつ 条 例 の整備については、令和6年9月 けんとう すず から検討を進めてきました。</p> <p>どうよう じょうれい せいび た どうけん 同様の条 例 を整備している他都道県 ねんていど せいてい れい おお でも1年程度で制定している例が多い と聞いております。</p>

ばんごう 番号	いけん がいよう ご意見の概要	さ き たい かんが かつ 左記に対する 考 え方
4 3	<p>ほうどう 報道では有識者会議が開催されたと あったが、だれ 誰が参加したのか（属性でも かま 構わない）。</p>	<p>ゆうしきしゃかいぎ 有識者会議の参加者等については、 い か 以下に内容を公開しています。</p> <p><a href="https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kodomoseisaku/kenri_jyorei/kenri_jyorei.html">https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kodomoseisaku/kenri_jyorei/kenri_jyorei.html</a></p>
4 4	<p>こ ども ばん「条 例で大切に 考 え方 は？」について、こ どもの けんり 権利の普及 けいはつ 啓発の目的は子どもが「社会のために」 こうどう 行動することではないはず。おとな 大人にとっ て 都合のいいこ どもをそだ 育てるのではな い。「けんぜんいくせい 健全育成」から「けんりこうししゅたい 権利行使主体」 へ かんが 考 え方を かんが 改 めるべきであり、いぜん 依然と して「こどもまんなか」のりねん 理念がしんとう 浸透し ていないことをかん 感じる。こ どもやしみん 市民、 せんもんか 専門家を含めたふく 議論がふじゅうぶん 不十分なのでは ないか。</p>	<p>じょうれい 条 例の けんとう 検討に あたっては、ゆうしきしゃ 有識者 かいぎ 会議のほか、こ どもを含めたけんみん 県民が参加 するたいめん 対面でのいけんこうかんかい 意見交換会（8月・11月） をじっし 実施いたしました。それぞれのけっか 結果に ついては、い か 以下に掲載しております。</p> <p><a href="https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kodomoseisaku/kenri_jyorei/kenri_jyorei.html">https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kodomoseisaku/kenri_jyorei/kenri_jyorei.html</a></p>
4 5	<p>じょうれい 条 例の 早期制定を希望します。現在 ねんちょうしゃせだい 年長者世代の「じどう 児童～せいねんき 青年期」は、 しゅうい 周囲の 価値観に 合わせて 行動していれば しゃかい 社会に 適応しやすい じだい 時代だったと言 えます。今日、こんにち 今、時代はきゅうげき 急激に変化して おり、グローバルで 多様な しゃかいかんきょう 社会環境に 置かれたこ どもたちは、じゆう 自由に 発言し、 しゃかいさんか 社会参加する けんり 権利を有しています。私 たちおとな 大人には、それらがつね 常に 侵されるこ となく、まも 守り、ささ 支えていく やくわり 役割がありま す。わたし 私はカウンセラーのひとりとして、 ながねんおとな 長年大人の い 生きづらさにむきあ 向き合っ て来 ました。そのけいけん 経験から、こ ども じだい 時代に 「こ 個」として じゆう 自由に 発言できなかつた</p>	<p>いただいたご意見は さんこう 参考とさせていただきます。</p>

ばんごう 番号	いけん がいよう ご意見の概要	さき たい かんが かつ 左記に対する 考 え方
	<p>さまざま はいけい つうかん 様々な背景があったことを痛感してい ます。 じょうれいせいいてい けん ししん 条 例 制定によって、県が指針を しめ みらい おとな こ 示すことで、未来の大人でもある子ども たちの「生きていく じしん 自信」につながって いくだろう きぼう いだ と希望を抱いています。</p>	
4 6	<p>こ あんしん せいかつ まな あそ 子どもが安心して生活し、学び、遊び、 そして じぶん き も つた じぶん 自分の気持ちを伝えられ、自分ら しく いてい ことができるように、こ 子ども が 守られる けんり ひつよう おも 権利が必要であると思うの で 子どもの けんり きほん じょうれい せいいてい 権利基本条 例 が制定される ことをのぞみます。</p>	<p>いただいたご意見は参考とさせてい たきます。</p>
4 7	<p>ひょうき じょうれいせいいてい さんせい いしかわけん 標記の条 例 制定に賛成です。石川県 には、いしかわこ しょうごうじょうれい かわ子ども総合条 例」があ ります。さいきん れいわ ねん 最近では、令和5年にヤングケ アラ しょう えん かん きてい ー支援に関する規定やこどもの ひんこんたいさく かん きていとう しんせつ 貧困対策に関する規定等が新設されて います。こんかい こ けんり ほしょう 今回の「子どもの権利の保障」 に関し、かん きそん じょうれい かいせい 既存の条 例 を改正するのでは なく、それに とっか じょうれいせいいてい め ざ 特化した条 例 制定を目指 したことはよいと思いました。とくに、「こ ども ばん さくせい てん じだい 版」が作成されている点です。次代 を にな こ 担う子どもたちには、すべてのこ ども たち ひとり ひと そんちょう あんしん たちが一人の人として尊 重 され、安心 で あんぜん かんきょう すこ せいちょう 安全な環 境 のもとで、健やかに成 長 する けんり 権利があります。ですが、「こども の けんり おとな こ 権利」は、大人はもとより、子どもた ち じしん し まさ 自身も、知らない もしくは正しく り かい 理解していないのではないのでしょうか。 こ ばん あん こ 子ども版（案）では、子どもの「4 つの けんり ぐたいてき か 権利」が具体的に書かれていて、わかり</p>	<p>いただいたご意見は参考とさせてい たきます。</p>

ばんごう 番号	いけん がいよう ご意見の概要	さ き たい かんが かつ 左記に対する 考 え方
	<p> <small>おも</small>やすいと<small>おも</small>います。<small>しゅやく</small>主役である<small>こ</small>子どもたち、<small>じょうれい</small>条 例を通して、<small>じんけん</small>人権を<small>まな</small>学び、その<small>けんり</small>権利は<small>ほしょう</small>保障されること、<small>じぶん</small>自分の<small>いけん</small>意見や<small>こえ</small>声は<small>う</small>受け止めて<small>と</small>もらえること、もし<small>じんけん</small>人権が<small>しんがい</small>侵害されたときは<small>きゅうさい</small>救 済されることを<small>し</small>知ってほしいです。<small>じんけんいしき</small>人権意識を<small>はぐく</small>育 むこと、<small>じぶん</small>自分は<small>じぶん</small>自分のままでいい、<small>たいせつ</small>大切な<small>そんざい</small>存在であると思えることは、<small>こどもたち</small>こどもたちの<small>せいちょうかてい</small>成長過程において<small>たいせつ</small>大切だと思います。また、<small>こ</small>子ども<small>けんりほしょう</small>権利保障に関わる<small>かか</small>大人の<small>おとな</small>（<small>さまざま</small>さまざまな<small>やくわり</small>役割を<small>にな</small>担った）<small>たちは</small>たちは<small>れんけい</small>連携・<small>きょうどう</small>協 同が<small>たいせつ</small>大切だと思いました。 </p>	
4 8	<p> <small>きんねん</small>近年の<small>こ</small>子どもへの<small>ぎゃくたい</small>虐 待、また<small>ひんこん</small>貧困・<small>ふとうこう</small>不登校、<small>ふ</small>増え続ける<small>こ</small>子どもの<small>じさつ</small>自殺と<small>こ</small>子どもを<small>と</small>取り巻く<small>ま</small>状 況は、<small>きび</small>厳しいものがあると<small>きぐ</small>危惧しております。そんな中、<small>いしかわけん</small>石川県で<small>こ</small>子どもの<small>けんり</small>権利に関する<small>かん</small>条 例が<small>じょうれい</small>策定されると<small>うかが</small>伺い、この<small>じょうれい</small>条 例により、<small>こ</small>子どもは<small>ただ</small>まず<small>けんり</small>正しく<small>まな</small>権利を<small>ひとり</small>学び、<small>ひとり</small>一人ひとりが<small>そんざい</small>かけがえのない<small>存在</small>であり<small>ひと</small>人として<small>けんり</small>権利を持つことを、また<small>おとな</small>大人は<small>こ</small>子どもの<small>ねんれい</small>年齢に応じた<small>おう</small>保護や<small>ほ</small>配慮<small>はいりょ</small>をする<small>せきにん</small>責任を持つことを<small>けんみん</small>県民が<small>とも</small>共に<small>かんが</small>考 える<small>たいせつ</small>大切な<small>いち</small>一歩となるよう<small>ねが</small>願っております。 </p>	<p> <small>いけん</small>いただいたご意見は<small>さんこう</small>参考とさせていただきます。 </p>
4 9	<p> <small>こ</small>子どもの<small>けんりじょうれい</small>権利条 例という<small>ストレート</small>ストレートな<small>なまえ</small>名前の<small>じょうれい</small>条 例が<small>よい</small>良い。 </p>	<p> <small>いけん</small>いただいたご意見は<small>さんこう</small>参考とさせていただきます。 </p>
5 0	<p> <small>こ</small>子ども<small>ばん</small>版について、何かしら<small>こ</small>子どもたちの<small>いけん</small>意見を<small>はんえい</small>反映しているのか？<small>こ</small>子どもの<small>いけん</small>意見を<small>はんえい</small>反映させるということ<small>を</small>を<small>ぐたい</small>具体化して<small>ほ</small>欲しいと思<small>おも</small>う。また、<small>せんせい</small>先生た </p>	<p> <small>こ</small>子ども<small>ばん</small>版については、<small>こ</small>子どもの<small>いけん</small>意見は<small>ちよくせつはんえい</small>直接反映していませんが、<small>いけん</small>いただいたご意見<small>さんこう</small>を参考<small>こんごとく</small>に今後<small>く</small>取り組みで<small>まいり</small>まします。 </p>

ばんごう 番号	いけん がいよう ご意見の概要	さ き たい かんが かつ 左記に対する 考 え方
	<p>ちが学校で子どもの権利条 例 を教える          際にそのまま使えるようなものが良い          と思う。</p>	
5 1	<p>いしかわの子ども権利基本条 例 の          制定を待っておりまして。ひと足先に          内灘町、白山市が制定されています。県          はいつ？という思いでいっぱいでした。          とにかく、県の制定で他の市町も動くこ          とが大きいと思います。社会から大人か          ら、守られるはずの子どもがいつの間に          かがまんを強いられている世の中を生          きているように感じてなりません。          世界中が不安定な今こそ、子どもが安心          して生きやすいこどもまんなか社会を          石川県から発信できるよういしかわ子          どもの権利基本条 例 の制定が必要で          す。子どもはこれからの社会を担ってい          く大切な 宝 です。健やかに 育 んでいく          ことを願います。</p>	<p>いただいたご意見は参考とさせてい          たきます。</p>